

### 普及活動検討会実施報告書

気仙沼農業改良普及センター  
実施月日：平成31年2月13日  
実施場所：気仙沼市波路上長磯  
JA南三陸階上支店

(単位：人)

#### 1 検討内容

No	検討項目
1	プロジェクト課題現地視察 「新たに施設園芸(いちご)部門を開始した法人の営農状況」 気仙沼市階上杉ノ下 シーサイドファーム波路上(株)
2	平成30年度プロジェクト課題活動報告 No1「気仙沼階上地域の新たな農業の展開」 No3「環境モニタリングデータ活用及びIPM導入によるいちごの収量向上」 No2, No5 課題の実施状況について
3	平成31年度普及指導方針及びプロジェクト課題活動計画

#### 2 検討委員の構成

区分	人数	区分	人数
先進的な農業者	1	生活者	
若手・女性農業者	3	学識経験者	
市町村	2	マスコミ	1
農業関係団体	1	民間企業	

#### 3 委員の評価と普及センターとしての対応方向

検討項目	評価値 平均値	評価結果 (コメント, 評価表の要約)	普及センターとしての対応方向
検討項目 No1「気仙沼階上地域の新たな農業の展開」	4.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・復旧農地での生産に取り組むのは大変と感じた。</li> <li>・畑の土壌が回復すれば生産拡大, 農業振興にも期待ができる。</li> <li>・ねぎの人手不足をどう解決するか課題と思われる。いちごは若手が働いており今後期待したい。</li> <li>・さらに体力ある経営を目指し, 若手定着, 継続出来る経営を確立して欲しい。</li> <li>・人員確保の難しさを感じました。</li> <li>・平成30年度で土地・施設整備が完了することとなる。今後3年間で経営確立出来るかが明暗を分ける事になる。</li> <li>・労働配分について引き続き力を入れた方が良いと思う。初めて作業に参加する人が多く大変だと思う。</li> <li>・活動の方向性は評価できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被災地域の復興に向けて最重点活動・課題として取り組んできた。復興支援活動の成果を確認しながら継続した活動を展開する。</li> <li>・法人への支援活動として, 経営管理, 若手定着・安定就労, 労務管理等の支援を継続する。</li> <li>・また, 効率的な作業体制, 労働生産性向上の視点を持った人員配置, 確保となるよう支援する。</li> <li>・新規プロジェクト課題対象として, 次年度以降も継続し支援する。</li> </ul>
検討項目 No3「環境モニタリングデータ活用及びIPM」	3.8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境モニタリングの導入により, 今後の収量を安定出来るよう支援して欲しい。</li> <li>・ハダニ, うどんこ病対策で効果が上がったことは評価出来る。他への普及拡大で安定生産を期待したい。</li> <li>・先進技術を導入し, いちごのダニ, うどんこ病にも良い結果が出ている。今後も期待している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境モニタリングデータを生産者間で情報共有し, 品質, 収量向上の高位平準化に向け支援する。</li> <li>・また, 未実施生産農家に向け波及推進を図る。</li> <li>・「気仙沼いちご」のブランド化と栽培技術修得に向け継続してプロジェクト課題として支援する。</li> </ul>

M導入によるいちごの収量向上」		<ul style="list-style-type: none"> <li>・気仙沼いちごで確立のためには、同水準での品質管理が重要となる、客観的データは必要と思う。</li> </ul>	
検討項目 No2 集落 営農組織の経営体質強化による地域営農の確立 No5 復旧農地でのねぎ安定生産技術の確立	3.6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野菜の収穫が出来るようになったことは良かった。水稻収量もアップし引き続きの支援を期待する。</li> <li>・復旧農地の営農は時間が掛かると思う。引き続きの支援が必要。</li> <li>・ねぎは土壌に未だ課題があるようで水はけなど早期改良を願う。</li> <li>・今後の拡大を考えれば、担い手確保が重要事項になると思われる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・排水改善実証技術(客土+サブソイラ施工)の改善効果を対象営農組合及び他営農組合へ波及させ、組合の自助努力(営農努力)による取組誘導する。 平成 31 年度新規プロジェクト課題で取り組む。</li> <li>・緑肥導入による土壌改善の取組と、春どり・初夏どり等の作型導入へ誘導・支援する。 平成 31 年度新規プロジェクト課題で取り組む。</li> </ul>
平成 31 年度普及計画について	3.4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの課題を踏まえ、目標にたどり着けるよう指導して欲しい。条件の悪い中(中山間や担い手不足)難しいと思いますが…。</li> <li>・課題の解決が少しでも多ければ、農業への期待も大きくなるのでは。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・津波被災地域の復興、農業振興に向けて最重点課題として取り組んできた。これまでの成果・課題を確認し活動を展開する。</li> <li>・新たに、中山間地域活動への支援課題を設定した。</li> </ul>
その他		<ul style="list-style-type: none"> <li>・SFH(株)を視察により若い人たちが一生懸命働いている姿が頼もしく感じました。今後も良い指導をして欲しいと思います。</li> <li>・土づくり(作物に合った)の指導をお願いしたい。</li> <li>・6次産業化にも力を入れて欲しい。</li> <li>・6次産業化に向けたいちごジャム、ドライフルーツなど加工・6次化の展開を期待します。</li> <li>・今日は2つの気づきがありました…靴用のポリ袋があること。いちごにも表と裏があること。</li> <li>・各地区の課題は共通したものです。JA としても普及と一体となり頑張っていきたい。</li> </ul>	

※：検討項目数に応じて欄を追加し記載する